

939

本訓示要領ヲ局報ニ掲載全職員ニ徹底致度

昭和十九年七月

供覧

甲第一八六 文書課長

第一部長

次長

技	情	質	法
術	報	報	制
局	局	局	局
長	長	長	長

（各通）

19.7.25
情報局宛

本日附... 訓示ノ要旨別紙
付ニ及ビ...
ルベク...

739 699

本館に於て、昭和十九年七月二十三日、



小磯内閣總理大臣ノ内閣部内勅任官ニ對スル訓示要綱

(昭和十九年七月二十三日)

責任ニ當リ、一言詞挨拶ヲ申上ケル。

眞ニ非常重大ナル時局ニ處テ、小磯之シキヲ以テ、國政變遷ノ大命ヲ

拜シ、自ラ内ニ奮ミテ進ダ盡死タル感ガアル。

然シ乍ラ、新クナル上ハ、身命ヲ賭シテ進歩ノ誠ヲ熱ス覺悟デアアル。

尤ヨリ不肖、不敏、一ニ同一職務ニタテマセラル諸君ヲ始メ、全官僚諸士

ノ心カラナル支持、後援ヲ得ルコトニ依リ、初メテ所企ノ目的ヲ達スル

コトヲ得ルノデアアル。格別國政變遷關係事項ニ關シテ初心ナル不肖ハ、

諸君ヲ始メ全官僚ノ衷裏一切ニ互ル後援ヲマツコト切ナルモノガアルノ

デス。小磯ノ企圖遠慮ニシテ若シ間違ツテキルト思ハレタナラバ、忌憚

ナク、誓合ニ依ツテハ面ヲ犯シテモ直言、進言シテ頂キ度イ。元ヨリ修

養ノ足ラヌ私デハアルガ新カル直道ニ對シテハ、爲シ得ル限り、吾等シテ
 テ悉クナイト云フ覺悟ヲ諸君ノ言ニ聽キ受イト思フ。然シ、衆議作ラ、
 其ノ結論ヲ如何ニ採用スルカハ、私ニ一任願ヒタク、而シテ、諸君ハ其
 ノ進言ガ、假令採用セラレヨウト、採用セラレマイト、即チ其採否如何
 ニ拘ラズ、私ガ右カ左カ何レガニ決定シタ後ハ、自己ガ從來抱懷進言セ
 ル考ニ喜デ後悔チ廻ツガ如ク之ヲ悔テ決定サレタ目的達成ノ爲ニ最善
 ノ努力ヲ盡サレタイ。

次ニ子孫ヲシイコトヲ申ス様デアルガ、上ノ好ム所下之ヨリ甚イト云
 フコトガアル。苟モ職チ内閣部内ニ在リ、一世ヲ指導スベキ立場ニ立タ
 ルル諸君ハ、何トイツテモ、社會ノ義理トシテ先目ノ的デアアル。諸君ノ
 一言一行ガ社會ニ及ボス影響ノ如何ニ大キイカヲ察セネバナラヌ。私自

身モ一俗物デアリ、内閣首座トシテノ修養未ダ足ラザルノ諸君ニキチ自
 省シ、爲シ得ル限り修養向上ニ最善ノ努力ヲ盡シタイト考ヘテ居ル。諸
 君モ亦、宜シク自重自愛セラレタイ。

現在社會ノ最モ發達トスル所ハ、人類チ十分ニ認メ得ヌコトデアアル。
 人ノ利コソ最モ大デアアルコトハ今更云フ迄モナイ。人類シテ、一國ニ
 限リ居テタル勢國氣ノ流布スルコトガ大切デアアル。

時局ハ誠ニ重大デアアル。暴引前ニ崩ルルトモ、激動ダニセズ底ノ驚動
 タル心境ニ立テ、如何ナル態度ニ直而シテモ寸毫モ屈章被損スルコト無
 ク、莞爾トシテ自己ノ信ズル道ニ邁進スル誠ニセネバナラヌ。如何ナル
 非常ノ事態ニ遭遇スルコトアルトモ、其ノ來ラザルニ先チ自ラ待ツアル
 チ待ムノ心境ヲ持セラレタイデアアル。

以上自ラゲタル心境ヲ將來益々奮勵努力シテ貫ヒタイト共ニ此氣持ハ

職員全体ニ對シ確實ニ指導進歩ヲ促イ。私ハ從來朝鮮ニ於テノ經驗ニ依
リ、專斷ガ行政ノ末端ニ徹底修養セヌコト方選メテ多イノヲ遺憾トシテ
居ル。末端ニ徹底セヌトイフコトハ實效ガ上ラヌトイフコトデアル。宜
シク以上ノ旨ガ克ク職員ニ徹底スル義務ヲ負ヒタイ。
以上ヲ以テ私ノ挨拶ヲ終ハル。

種別

内閣閣乙第一八一號

文書課長

昭和十九年八月二十三日

内閣官房總務課長

總裁官房總務課長

情報局總裁官房文書課長殿

第一部長

放送部長

國民運動課長

週報課長

出版課長

文書課長

ト候

本日地方長官會議ニ於ケル内閣總理大臣訓示要旨別紙ノ通一都送付ニ及

第三部長

對外報章課長

對外事業課長

19.8.26
情報局